

第 6 回土岐川庄内川流域委員会 議事要旨

日時 : 平成 16 年 8 月 4 日 (水) 14:00 ~ 17:30

場所 : 名鉄ニューグランドホテル 7F 椿の間

1 . 開会

2 . 挨拶 (中部地方整備局 庄内川河川事務所長)

3 . 議事

第 5 回土岐川庄内川流域委員会議事要旨の確認

第 5 回流域委員会議事要旨が確認されました。

土岐川庄内川コレカラプロジェクトの実施状況について

自然環境ワーキンググループ、地域懇談会、行政連絡会議の実施状況について報告し、次のような意見を頂きました。

〔自然環境ワーキンググループ〕

- ・ WG の意見を流域委員会の課題としてどう取り込むかは、議事「(3) 現状と課題のとりまとめについて」で議論する。

〔地域懇談会〕

- ・ オープンハウスで使用する資料等は、流域の住民がどこから水を得てどこへ水を流しているかということがわかるなど、自分たちの生活と流域とのつながりが意識できるような工夫をして欲しい。
- ・ オープンハウス、車座集会などの活動は、回数を重ねていくだけではなく、少しでも毎回進化したものにして欲しい。

〔土岐川庄内川行政連絡会議〕

- ・ 自治体からの意見がうまく流域委員会に伝わるようにすること。
- ・ 愛知県が進めている流域委員会や住民アンケートなどの情報を共有し、それらの概要を当流域委員会でも適宜報告すること。

現状と課題のとりまとめについて

現状と課題は、「コレカラプロジェクトレポート Vol.1」としてとりまとめ公表していくこと、同レポートを早期に公表していくために、各委員は再度「資料-3 現状と課題のとりまとめ」を(持ち帰り)確認し、意見などがあれば事務局に提出すること、事務局は提出された意見と本流域委員会での意見を踏まえて同レポートを修正し、委員長の見終確認を得て公表することが決定しました。

なお、流域委員会では主に次のような意見を頂きました。

〔治水の課題〕

- ・ 「流域自治体との連携」については、「洪水時の対応と関連機関の連携

強化」という視点も重要であるから、平常時と非常時との連携を区別し新たに項目立てをすること。

- ・「雨水貯留・雨水浸透機能の減少に考慮する」を「機能を確保する」など、ポジティブな表現にした方がよい。
- ・河川整備の困難性や緊急性などについては、重要性がわかるようにメリハリを付けて表現すること。
- ・「氾濫域の状況に合わせた河川整備」については、雨水流出形態・特性も考慮する必要がある、氾濫域の状況と合わせて正確に記すこと。

〔水利用と水環境から見た課題〕

- ・流域自治体や地域住民に関わる項目については、住民に対する流域の意識を高めるために、「流域の一員として」という表現を用いて工夫すること。
- ・「水環境を創造する」の表現は、わかりやすくなるよう工夫すること。
- ・水質については、伊勢湾の環境も視野にいれた表現にすること。
- ・「下水道の整備の推進」については、窒素・リンなどの対策を見るのであれば、高度処理という言葉もいれてはどうか。

〔河川の自然環境から見た課題〕

- ・源流の森から伊勢湾の先までのつながりを意識し、沿岸域も含めた「流域圏」という表現にした方がよい。
- ・河川は都市域の貴重な自然空間であるという視点と、河川が軸となって上流から下流、沿岸域をつないでいるという視点で整理すること。

〔人の関わりの面から見た課題〕

- ・「治水を考慮した堤防」という副次的な表現を改め、「治水機能を妨げない」というような表現に工夫すること。
- ・堤防道路や占用施設は川本来のあるべき姿ではないなど、流域委員会としては、川を最優先に考えた意見を出していくべき。

〔その他〕

- ・コレカラプロジェクトレポートの土岐川庄内川の概要は、土岐川庄内川のしくみや成り立ちを含めもう少し厚くし、多くの住民が関心を持てるように、住民が自分はどうのような位置(流域)に住んでいるのかわかるような工夫をすること。

次回の議題について

次のことが確認されました。

- ・第7回の流域委員会は、どの課題への対応を優先すべきなのか(課題の重み付け)について議論する。

4．閉会のあいさつ（中部地方整備局 河川計画課長）

5．閉会